まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 28 年 11 月 28 日（月） 18：30～19：56

場 所：くりやまカルチャープラザ「E k i」（2 階）研修室 A

出席者：35 人

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 町からの情報提供
 - (1) 除排雪作業について（資料 1）
 - (2) くりやまコミュニティバスについて（資料 2）
 - (3) 特定健診について（資料 3）
 - (4) くりやまキャッチボイスについて（資料 4）
4. 懇談
 - (1) 道央廃棄物処理組合が建設するごみ焼却施設の負担割合について
 - (2) 栗山町総合防災訓練について
 - (3) アスベスト問題について
5. その他
6. 閉会

《町からの情報提供に関する質疑応答》

質疑：コミュニティバスの運行について、北区から乗車して役場に降り、役場から警察署まで乗るとする。2 便に乗ることになる。警察署からバスの乗り合わせはあるのか。要するに北区へ戻りたい。その場合、料金は発生するのか。

建設水道課：資料の 2 ページ上段の運行路線を見ていただきたい。北区からは 3 番から乗ることになる。そこから乗って 1 から 8 便までで 1 回降りてしまうと 200 円かかる。1 回降りると 200 円、また乗降すると 200 円となる。

質疑：道路の除雪で良い方法はないか。去年 3 人がひっくり返っている。自分でも朝、砂をまいている。

建設水道課：道道から少し盛り上がり急こう配となっており、住宅が左右にはりついている。今まで同様に、融雪剤や滑り止めの砂まきなどをお願いしたい。道道整備が実現すれば道路拡幅なども検討していきたい。

質疑：コミュニティバスがうちの方に来ない。

建設水道課：見捨てているわけではない。当面の運行として八の字コースを設定しており、当面は現在のコースを進めることをご了承いただきたい。今後、見直しを検討していきたい。

質疑：電柱付近に消火栓がある。消防の方が除雪しているが、除雪したところに雪を入れてくる。長沼出張所が実際に見に来て「これでは申し訳ない」と頭を下げてくれた。消火栓があることをわかるようにしてほしい。空いているからみんな雪を入れていく。看板が電柱の陰で見えないので、低かったらダメ。

建設水道課：お手数をお掛けして申し訳なく思っている。道道の除雪になるので、長沼出張所に伝えておく。

質疑：除雪について、松風2丁目を歩くときに雪が山積み、相当前出ないと車が出入りするのが見えない。左はマンションあるから除雪ができない。山積みにしないで見えるようにしてほしい。

建設水道課：簡易郵便局も道道。安全対策を長沼出張所に伝えておく。

質疑：コミュニティバスについて、エコビレッジの奥に7・8件家がある。何とか路線を延長できないか。

建設水道課：エコビレッジでUターンするコースで運行させていただくが、これから高齢化が進み、社会に対応できるバスを実現していくためにコミュニティバスを導入したので、必要に応じて見直していきたい。

質疑：定期の料金で質問したい。運行状態はわからないが、1回の定期を使うと高く感じる。月22・3回定期券を使っても1日1回313円。データはわからないが、3ヵ月の定期で297円かかる。数的に矛盾していないか。

建設水道課：バスの試験運行が終了したが、利用状況から維持管理に1,200万円、利用者負担を3割にし、残りを町費としている。定期料金の関係は、22日くらいしか走らない。元をとるには18日間乗ることになる。1回の用事に400円。それ以上の日数を乗車すると得になる。

質疑：コミュニティバスの休みの日がわからない。バス停には表示されていないようだ。時間は書いてあるので工夫したほうが良い。

建設水道課：12月1日から土日運休の宣伝をしていきたい。

質疑：樹木の伐採について、桜丘森線のハサンベツ里山までは配慮されている。奥の道路の木の枝を年に一回切ってほしい。交通事故の観点からも必要と思う。

建設水道課：本日、現地を確認してきた。かなり町道に被っていて低い位置にあり、乗用車にキズがつく。枝はらいなど森林組合と立ち会ってきたので、来年からはこのようなことがないようにしたい。

《懇談に関する質疑応答》

質疑：サミットのような、栗をやっている人たちが集まるイベントを開催してほしい。

ブランド推進課：栗のブランド化については、平成22年に「北のくりやまクリづくり協議会」を立ち上げ、東山にある圃場で約700本の栗を育ててきた。昨年までは、岐阜県の恵那川上屋に栗山町の栗を送って栗の渋皮煮を作っていただき販売したが、今年度、農業者が栗山の栗を使って渋皮煮と甘露煮を作ってくれ、ようやく栗山の栗を使った本格的なものができる。10月に行われたオーロラタウンでの催しに出品し、札幌では北キッチンなどで販売している。町内では、11月23日からまちの駅「栗夢プラザ」で本格的な販売が行われた。栗の産地は全国にある。いきなりサミットなどの事業展開ができるかはわからないが、検討していきたい。

質疑：御園パークゴルフコースが無料になり、利用する人が多くなった。管理人がいるはずなのだが、コース上の落ち葉などを拾う人がいない。無料の施設でもコース上の管理はしてほしい。

教育委員会：指定管理からは外れており、必要に応じて対応していただいている。そのような状況にあるのであれば、できる限り対応していきたい。

質疑：町内でさまざまなイベントがあり、すごい人が集まる。駐車場がないために、ひどいときには篠原木材の空き地などに入り込んでいる。見ていて思うのだが、人口を増やそうと思うのなら、遠くから来た人を親切にしてあげたらどうか。町内には空地が多い。個人の土地を借りることはできるのか。イベントのときに駐車場がなく引き返した車が多かった。措置を努力した方が良い。空地があるのなら小林本店の駐車場などを借りて、次から仕切って停められるようにしたらどうか。一人でも人口を増やそうと思うのなら努力しても良い。

質疑：交通指導員をしているが、混んできたら駐車場はどこですかと聞かれる。駐車場がわかる紙を指導員に渡してもらえると助かるのでお願いしたい。

建設水道課：せっかく来町してきた人に良い思いをしてほしい。しかし、私有地を駐車場にするのは難しい。民有地は所有者の了解を得なければならない。篠原木材の敷地を購入したが、駐車場を整備する計画を立てている。なるべく駐車場に活用できるように整備していきたい。混雑が解消されるわけではない。来た人全てを網羅する駐車スペースを確保するのは都市基盤の整備上、難しい。

質疑：空地が多過ぎる。1週間くらい前、おにぎりを買いたい人から「セブンイレブンがない。どうなっているのか、これが町ですか」と言われた。何とも言えなかった。

ブランド推進課：駅前通りは確かに空き店舗などがあるので、商工会議所と一緒に取り組んでいる。セブンイレブンが撤退されたということがあったが、現在、コンビニエンスストア出店の話もあり、駅前通りの計画が進められている。

町長：現在、道道の7・8区の街路事業が最後になるのだが、10数年論議してきて、平成30年の事業に乗せてもらうように論議し陳情展開もしている。それと合わせて駅周辺の計画をセットで、現在、用地購入した。その計画では駐車場などの整備も載せている。あまり投資はできないが、その期間までの利用方法を整備構想に載せてあるので、その状況に対応する。

質疑：栗山町と宮城県角田市が姉妹都市で、子どもたちの交流は何十年も続いているのはわかっているが、私たちは行ったり来たりはしているが、町民は行ったことがない。一回くらい角田市との交流をしてほしい。

町長：姉妹都市締結後、子どもたちはもちろん、青年は毎年相互交流している。角田市からも福祉関係団体など相当来てもらった。特産品の販売を農業まつりで販売をしている。一般の人の機会がないので、5~10年に1回、相互交流できるように検討したい。

質疑：2年前の12月に総合福祉センターで開催された説明会で、ごみの炭化施設の件で苦渋の選択をした話があったが、その検証はされたのか。炭化施設の町の支払いが残っていると思うが、どのくらいなのか。今回、道央廃棄物処理組合に加盟して栗山町の負担が高い。これは決定されたのか。町の負担が高いので、そのあたりも含めて回答いただきたい。

副町長：炭化処理施設については、ご存じのとおり2基あって、冷却周りや維持管理の問題で運用が困難になったとの判断をもって、やむなく停止にした。その時点がちょうど道央廃棄物処理組合が動きだして間もなく、栗山町としてどちらに舵をとるべきかという判断のもとに、道央廃棄物処理組合に入る最後のチャンスがこのタイミングしかないということで、

そちらにシフトして焼却に舵をとった。炭化炉については、基本的に安全運用が今後担保することが可能かどうか、専門業者含めて協議したが安全に処理するのが非常に困難になって住民の皆さんにも説明会を開いて進めていった。炭化炉は、この時点で今後運用しない。一方で、道央廃棄物処理組合に加入してそちらの選択肢に向かっていくことにした。その後、2市3町で構成されていた道央廃棄物処理組合が発足されていたところに栗山町も加盟させていただいた。組合に栗山町が入ることによってさらに計画の練り直しなど、協力してもらいながら進めていった。今回、加盟も承諾され、2市、栗山町、3町では南空知公衆衛生組合で既にこれまで組織として動いていた1組合で負担割合について検討してきた。負担については、大原則はごみの処理量、長沼町、由仁町、南幌町の3町では生ごみを処理しない。3町の排出するごみの総量と栗山町の量がほぼ同量で、額もほぼ同じ。栗山町が9,000万円ほど少ない。炭化炉に関しては既に償還済みで、処理については終わっている。

質疑：長沼町、由仁町、南幌町は、生ごみをどうするつもりなのか。

副町長：長沼町、由仁町、南幌町は南空知公衆衛生組合を組織していて、共同で生ごみの処理をしている。その施設は当面維持できることから、生ごみは公衆衛生組合の中で独自で処理できる。

(19 : 56 終了)